



SALVATIONIST

とぎのこえ

2025年標語「信仰の遺産の上に築く」(テモテへの手紙二1章14節)



二〇二五年五月十五日発行

明治二十八年創刊

福音版・毎月一日発行

広報版・奇数月十五日発行

初夏号

広報版

2025

May-June

No.2888

2025年 救世軍標語

「信仰の遺産の上に築く」

「あなたにゆだねられている良いものを、わたしたちの内に住まわれる聖霊によって守りなさい。」

テモテへの手紙二 1章 14節



ペンテコステ 6月8日(日)

「五旬祭の日が来て、一同が一つになって集まっていると、突然、激しい風が吹いて来るような音が天から聞こえ、彼らが座っていた家中に響いた。そして、炎のような舌が分かれ分かれに現れ、一人一人の上にとどまった。すると、一同は聖霊に満たされ、「霊」が語らせるままに、ほかの国々の言葉で話した。」

(使徒2:1~4)

と きの こ え SALVATIONIST

初夏号 広報版
2025 May-June
NO.2888

もくじ

- **メッセージ**
聖霊、この不思議なお方
大尉 平本 祐子 ……3
- **〔連載〕聖潔の流れに立つ 第38回**
ジョン・ウェスレーの聖潔
一心うちに燃えて—
少佐 丸畑 幸夫 ……4
- **集会報告**
コイノニア・リトリート ……5
- **軍国の新たな取り組み**
YGC (山室軍平カレッジ) について
少佐 ダニエル・テンプルマン・トゥエルズ
特務中尉制度について ……6
- **軍国の新たな取り組み**
バザー場の新たな展開「リシェア・ストア」開店に向けて ……7
- **証言**
献身の証言 ラーランザウイ候補生
YGC (山室軍平カレッジ) ……8
- **各地のニュース !!**
東京東海道連隊、渋谷小隊 ……9
- **YP (青少年部)・ファミリーニュース**
杉並小隊、横浜小隊、名古屋小隊 ……10
- **各地のニュース !!**
ブース記念病院、女性部、希望館 ……11
- **社会鍋による支援**
横浜小隊、福山小隊、札幌小隊、江東小隊 ……12
- **〈連載・第32回〉**
神の呼びかけ～神の民となるために～
(12) 戦いへの呼びかけ
(13) 家族への呼びかけ ……13
- **救世軍見解表明**
社会道德に対する救世軍の立場
第16回「安息日の遵守」(2)
第17回「自殺防止」(1) ……14
- **召天記事、救世軍公報**
- **各地のニュース !!**
社会福祉部・医療部 ……15
- **ミャンマー大地震への対応** ……16



@SArmyJP



SArmy_JP



救世軍
The Salvation Army

きりと

- 『とぎのこえ』購読を申し込みます。
(1年分1140円。税込、送料別)
- キリスト教についてもっと知りたいです。

ご氏名 _____

ご住所 _____

表紙の写真：入校した候補生と
YGC (山室軍平カレッジ) 校長、教
官、スタッフ一同

メッセージ

聖霊、この不思議なお方

大尉 平本祐子

今年のペンテコステは六月八日です。聖霊降臨を記念するこの大切な日を、今年も新たな思いのうちに迎えたいと願います。

使徒言行録二章が伝える

ように、イエス様のご復活後五十日目に、弟子たちに聖霊が降りました。聖霊により、弟子たちは大胆に福音を宣べ伝える力を受け、多くの人々が信仰に導かれました。それは、復活されたイエス様が、天に昇られる前に約束されたとおりのことでした。

「あなたがたの上に聖霊が降ると、あなたがた

は力を受ける。そして、エルサレムばかりでなく、ユダヤとサマリアの全土で、また、地の果てに至るまで、わたしの証人となる。」(使徒1・8)

弟子のペトロはイエス様の十字架と復活を力強く語り、イエス様こそメシアであると宣言し、「ペトロの言葉を受け入れた人々は洗礼

を受け、その日に三千人ほどが仲間に加わった」のです(使徒2・41)。ペンテコステが教会の誕生日とも呼ばれる所以です。

それ以来、長い時が流れる中で、悔い改めてイエス様を信じ、聖霊を受けた数知れない信仰者の群れに、

今を生きるわたしたち救世軍人も連なっています。

さて、わたしたちにとって聖霊とは、どのような存在でしょうか。「イ

エス様、神様のことはわかるけど、聖霊のことがよくわからない」と聞くことがあります。確かに聖霊は、あまりに広く、深く、言葉では捉えきれない、不思議なお方というしかない部分もあると思います。わたしたちは御言葉を通して、聖霊をより親しく知っていきたいものです。

イエス様は聖霊についてこう教えておられます。「わたしは父にお願いしよう。父は別の弁護者を遣わして、永遠にあなたがたと一緒にいるようにしてください。この方は、真理の霊である。」(ヨハネ14・16、17)

この「弁護者」という言葉は、「そばに寄り添う者」や「慰め主」という意味をもちます。聖霊は、わたしたちの普段の生活の中で寄り添い、導き、慰めてくださる存在です。

聖霊は、わたしたちとい

つまでも共にいてくださる神です。聖霊は、父なる神子なるイエス・キリストと全く等しく、この三者は独立しているがら一つとして存在しておられるお方です。聖霊は、神様やイエス様と同様に、敬意をもって呼ばれるべき存在ですから、「聖霊様」とお呼びすることもあるのです。

聖書の中で聖霊は、風や息、火、鳩などのイメージを伴って表現されています。これらの象徴は、聖霊がどのようなお方であるかを理解する助けとなると思います。聖霊はあなたにとって、

どのようなお方でしょうか。どのようなか癒す風でしょうか。不要なものを吹き飛ばし、心を全く一新する力強い風でしょうか。罪や古い自分を焼き尽くす火でしょうか。救世軍のクレストにある「血と火」の「火」は、聖霊の火を示しています。または、鳩のように穏やか

に、神との平和へと導く存在でしょうか。その働きや理解は、一人ひとりによって、その時々異なるものでしょうが、聖霊は全く自由に、私たちの内に働いて、聖め、新しくし、力を与え

てくださるお方です。

てくださるお方です。

聖霊の御働きは本当に広く深いものです。イエス様はこうもおっしゃいました。「父がわたしの名によってお遣わしになる聖霊が、あなたがたにすべてのことを教え、わたしが話したことをことごとく思い起こさせてくださる。」(ヨハネ14・26)

聖霊が、イエス様の歩み、教え、その品性をわたしたちに思い起こさせてください。また、使徒一・八にある「力」という言葉は、ギリシア語の「デユナミス」であり、これは「ダイナマイ

ト」の語源となった言葉です。それは、物事を壊す力であると同時に、何かを創造する力も意味します。聖霊はわたしたちに、自由なアイディアや刷新のための力を与え、すべてのことを通して、燃える炎が一瞬たりとも同じ動きをしないように、冷たく固まることなく、力強く神の栄光を証しするよう、導いてくださいます。

使徒パウロは、「霊の結ぶ実は愛であり、喜び、平和、寛容、親

切、善意、誠実、柔和、節制です。これらを禁じる掟はありません」(ガラテヤ5・22、23)

と記しました。聖霊が自由にわたしたちのうちに働いてくださることを求め、心を開いて聖霊に差し出していくとき、これらのうるわしい実がわたしたちのうちに結ばれます。それは一朝一夕に成ることではないでしょうが、聖霊はわたしたちを造り変え続けてくださり、イエス様に似た者として、愛をもって互いに仕え合うように、そして神様を証しするよう導いてくださいます。

聖霊、この不思議なお方によって、わたしたちは日々、イエス様に従う者として生き続けることができ

るのです。祈りの中で、聖書の御言葉を通して、聖霊との生き生きとした関係をより深めていきたくと願います。聖霊が共にいてくださる、そのご臨在の恵みに心を向けていきましょう。永遠に一緒にいて、導きと慰めを与えてくださる聖霊に頼り、イエス様に従い、神様のご栄光を表す歩みを進めていきましょ。

(月島小隊十官)



〈連載〉 聖潔の流れに立つ 第三十八回

ジョン・ウエスレーの聖潔 — 心うちに燃えて —

少佐 丸畑 幸夫

（承前）「良い贈物は……みな、上から、光の源である御父から来るのです」（ヤコブ1・17）。それを与えてくださった方に感謝しよう。「蓴菜の花」は朝早く、人目にふれない時間に咲くので、ほとんどの人は見ることがない。聖霊による霊感も同様で、人知れず魂に宿る。これが本当の幸福というべきものであろう。

聖霊の導きは、人生の面白味を人の心にロマンチズム（夢）として与える。聖霊は毎日のように私たちがどのように聖潔の道に至るかを教えてくれる。ウエスレーは、あらゆる善き業の源泉は聖霊であることを強調している。それも、自分で骨を折って求めなくても、ひとりだけでやって来るのである。

しかし人間の魂と聖霊が神秘的に融合して一つになつてしまうという思想をウエスレーは排除して、聖霊は私たちの心の底にある罪を示して、人格的にキリストに頼らせる決断を促すものと理解している。

マックス・ウェーバーは、ウエスレーを感情的であると捉えているが、これは感情によつて得られるものではない。それは神を透視することではなく、聖霊なる神の近くにいる体験から来るのであって、感情によつて得られるものではない。

神秘的ではなく、聖霊の業は聖書に示されている秩序に従っている。それは「絶対者」を直感的に感得する宗教的な体験であり、神から与えられる重要な賜

物である。これを受領した者は、それが神秘主義よりもたらされたものではないとの確証をもっている。

この喜びと平和と自由の充実ぶりは、聖霊の働きを体験した者でなければ、感じる事ができないものである。これを得た者は、絶えず神の愛に燃やされて、祈りが心の内に沸いてくることを感じとる。これには敬虔がついてくる。

「良い贈物、完全な賜物はみな、上から、光の源である御父から来るのです。」（ヤコブ1・17）。

ルネサンス・ヒューマニズムは人類を聖書的な方向へも、非聖書的な方向へも導いていくことができた。近世は自律的な世俗的なものへ動いていった。間違つてしまうと、聖霊の導きに依頼せず、神には何の関係もない宗教と幸福を編み出してしまふのである。道徳上の墮落を制する力を欠いて、傲慢な利己主義が根を張つてしまふのである。

スコラ学が評価した慎重深く誠実なソクラテスやプラトンでも、キリストの贖罪愛には達することができなかった。ウエスレーは、ギリシア・ローマの源泉に混淆したヒューマニズムには全面的には賛成しなかったが、ルネサンス人文学者のエラスムスには敬意を示している。天与の聖霊によらなければ、私たちが神のものであると知ることができない。

聖霊が与えてくれる完全の確証は、天使の完全でもなく、アダムがもっている原始的完全でもない。人間的な努力によつて与えられるものでもない。それはまた赤ん坊の完全でもなく、神の愛に裏付けられた福音の完全であり、「健全な神秘的体験の香り」と表現されることもある。ウエスレーは東洋的・人間的「神秘主義」には注意するよう言っているが、正統的神秘主義には幾分、寛容である。そこには独自の霊的思想が認められるからである。

これは深い意味の神秘性であつて、自ら体験した人でなければ正しく理解できないものである。天与の聖霊によつて、私たちが神のものであることを知るよう

になる。人は「キリスト者の完全」の意味が明確に理解できる時、人生最大の喜びを経験することとなる。

B. 恩寵の賜物としての完全

ウエスレーの青年時代は功績や行為を重んじる傾向が強かったが、熟年に至り、完全の概念を功績の觀念より全く解放し、神の恩寵の賜物として単純な信仰の中に天上の満ちたりた幸福感と十全の完全を発見している。ウエスレーの場合は、律法から解放されて恩寵の下に生きる時、信仰に生きる喜びを経験した。また、聖潔の教理を功績の秩序から恩寵の秩序へと完全に移動させ感謝に満たされた。私たちの内には自らを誇ることができるような善行も功績も全くないのである。信仰による聖潔、これはウエスレーの独創なのである。聖潔とは恩寵の継続的な御業である。

これは神秘主義、儀式主義、律法主義、自然主義、形式主義、觀念主義、啓蒙主義（狭義の）、ロマン主義（狭義の）人道主義や楽天主義、倫理主義、道徳主義、禁欲主義、唯物主義等から解放している。

ウエスレーはヒューマニズムをすべて根絶しようとは考えていない。極端にヒューマニズムを低く評価することは、かえつて人間愛を否定し、神を冒瀆することになると考えている。

心の内に燃える健全な幸福感は神の恩寵によつて回復されるものであつて、自分の善行の力を借りて天国に入った人は一人もいない。

C. 体験的・実行的な聖潔とは何か

ウエスレーは新しい組織をつくらうとは考えていなかった。彼は自分たちのグループを制度化せずこの世を去った。キリスト教は制度ではなく生活体験であり、そのグループがいかに少数であっても、真に価値あるものは個人の聖潔から始まるべきだと考えていたからである。最後に残るものは組織ではなく人でもない。神の国が地上に来るまで残るものは聖潔によつて個人から始まる聖霊によつて結ばれる絆である。（続く）

集会報告

コイノニア・リトリート 2月28日(金)～3月2日(日)

会場：杉並小隊・総合センター別館(アネックス)

今年のリトリートは、マタイ11:28「疲れた者、重荷を負う者は、だれでもわたしのもとに来なさい。休ませてあげよう」の御言葉に基づき、「生きづらさからの解放」のテーマで、講師の豊田信行牧師(単立ニューライフキリスト教会牧師)と豊田かなさんご夫妻が講演をしてくださいました。各地から参加者が集いました。

2月28日(金)「セッション1」の始まりには、参加者同士、また豊田先生ご夫妻と挨拶を交わす時をもちました。賛美の歌を数曲歌い、軍国青少年部長朝澤義人大尉がテーマとゲストの紹介をしました。早速、豊田信行先生から「レジリエンス(回復力、倒れても起き上がる力・立ち直る力)」について講演がなされました。マタイ11:28～30から、疲れと重荷について、心の余白の大切さ、神の心の広さを知ること、神の期待は大きい^にが重くはない、その日その日の担^にうべき重荷はあるが、明日の心配までする必要はなく、一番重^いところはイエス様が担^ってくださる、また、日々の活動の中で何に「はい」と言い、何に「いいえ」と言うかは一つの修練であり、心に毒を貯めることなく、神とわたしと隣人との間で愛が豊かに循環するためにも欠かせないことである、などのポイントについて、ユーモアを交え、参加者に問いかけながら語っていただきました。

3月1日(土)9時からのデボーションの時間では「聴くドラマ聖書」からマタイ11章を聞き、小グループで分かち合いと祈りの時をもちました。「セッション2」は前日の講演を聞いて出された参加者からの質問に豊田先生が答える時間をもち、人間関係における境界線や、安息日の意義、自分が何者かを何で測っているか等、さらに考えを深める時となりました。昼食後、「セッション3」はこれまで聞いた講演内容の分かち合いを小グループでおこない、その後、ひと言ずつ感想や今の思いを発表しました。続いて、質疑応答の時間をもちました。夕食をいただき、その後も自由に語り合う時が続きました。

3月2日(日)10時から聖別会。豊田先生はエフェソ2:10より「神の作品」と題しメッセージ。わたしたちは皆、神の唯一無二の作品であって、神はわたしたちの人生を決して離さず、あきらめないというヘセドの恵みについて、ルツ記のナオミの姿、また先生ご自身の経験を通して語られました。恵みをもってわたしたちの人生を完成しようと約束してくださっている神の決意を信じ、フィリピ1:6のパウロの確信をわたしたちももつことができるよう祈りました。

三日間を通し、豊田先生とかな先生の体験と、何より御言葉に基づく語りかけは、忙しさの中で神がつくられた自分を見失いがちなわたしたちに、新たな気づきを与えるきっかけとなりました。恵みに感謝し、散会しました。(参加者38人)



豊田信行先生



豊田かな先生

リンドン・バッキングム大将及び
ブロンウィン・バッキングム中將 指揮

全国大会

2025年11月19日～25日

テーマ「新しい地平線へ」

(イザヤ書43章19節)

*主な日程

- 11月19日(水) 大将夫妻来日
11月21日(金) 午前10時 全国士官会①
午後2時 全国士官会②
会場 山室軍平記念ホール
11月22日(土) 午後2時 チャリティコンサート
会場 中央区日本橋公会堂
11月23日(日・祝)
午前10時 大会聖別会
会場 日本教育会館9階 喜山倶楽部
午後12時30分 大会昼食会
会場 日本教育会館9階 喜山倶楽部
午後3時 賛美集会(仮称)
ゲスト・長沢崇史牧師、メッセージ・大将
会場 山室軍平記念ホール
午後5時 ユースとの夕食会
会場 山室軍平記念ホール
11月25日(火) 離日

今から覚えてお祈りくださり、ご参加ください!



軍国の新たな取り組み

YGC(山室軍平カレッジ)について

YGC(山室軍平カレッジ)校長(士官学校長) 少佐 ダニエル・テンブルマン-トゥエルズ

「工事の担当者たちはそのように行い、彼らの働きによって修理の作業は進んだ。彼らは神殿を元の状態にし、また補強した。」(歴代誌下24章13節)

YGC(山室軍平カレッジ)のミッションステートメントは、「すべての人々のための教育と霊的生活の成長の場」となることです。はじめに、重要なのは、本年4月1日から、現在の形の士官学校が、「YGC(山室軍平カレッジ)」のもとに組織されるのは、救世軍の130年にわたる豊かな歴史を消し去ったり、縮小したりするものではないということです。むしろ、多くの人々が長年にわたって築いてきた基盤の上に築き上げられること、それと同時に、将来の世代のための教育と霊的生活の成長を強化することを目指しています。

今年、軍国全体で多くの変化が起こっており、軍国の歴史で初めて取り組む新しい仕組みも導入されています。士官候補生を『変革の宣言者』の学年に迎えるのは偶然ではありません。名前が示すように、確かに変革の年を迎えているのです！

日本軍国の教育及び霊的生活成長戦略の一環として、YGCはオーストラリア軍国のエヴァ・バローズ・カレッジ(EBC)や英国及びアイルランド軍国のウィリアム・ブース・カレッジ(WBC)など、他の国際的な事例と、日本軍国の訓練とリーダー育成のニーズをより一致させるものとなります。

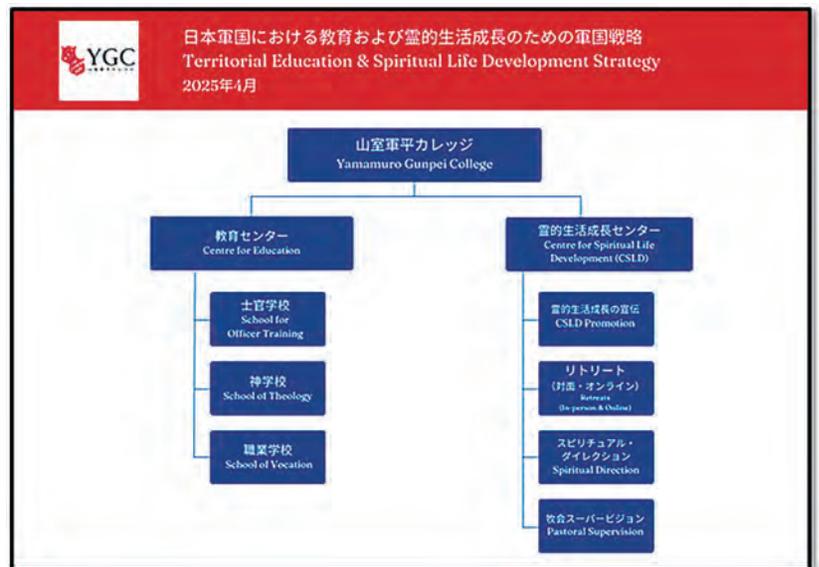
「カレッジ」とは、「学校の集まり」という意味で、それぞれが学びや育成の特定の領域に重点を置いている学校の集まりのことです。そのため、YGCは教育センター(EDU)部門と霊的生活成長センター(CSLD)部門という、2つの支部に分かれています。*図を参照してください。

教育センター部門には、士官学校(士官候補生教育〔継続的な霊的形成と専門能力育成を含む〕)に加え、将来的な、神学校と職業学校の発展に備えています。

霊的生活成長センター部門は、軍国全体での霊的生活成長に関する活動の発展のため、対面及びオンラインのリトリートやその他の関連イベントを促進し、支援します。また、スピリチュアル・ディレクション(霊的指導)と牧会のスーパービジョン(専門指導)等が利用可能になった際に、良い展開ができるよう準備をします。

教育センターと霊的生活成長センターの両部門、及びそれぞれの学校やそれぞれの重点分野は、YGC(山室軍平カレッジ)という大きな旗の下に含まれています。

YGCはこれからこの形をとり始めます。スタッフと候補生はじめ、この場所で学び、自分自身の教育をさらに重ね、霊的生活の発展を深めるすべての人々のために、引き続きお祈りいただければ幸いです。



◆特務中尉制度について

救世軍日本軍国における献身の道を広げるため、今年度から「特務中尉制度」が導入されました。特務中尉について概要をお知らせします。

特務中尉とは、日本軍国における非士官の働き人であり、士官ではありませんが、士官と同じ条件の下で奉仕し、士官が引き受けるすべての任務を遂行することを求められている伝道者です。

特務中尉は次のように定義されます。

1. 召命にたえたる者

特務中尉は、士官ではありませんが、士官と同じように、神からの召命にたえて、神と人に仕えるためにすべての時間とエネルギーをさげます。

2. 訓練を受ける者

特務中尉は、個別に用意されたカリキュラムに沿って、柔軟性のある訓練を受けます。それらは、働きを行う上で必要な、霊的生活、教理、伝道、管理運営などです。

3. 使命を推進する者

特務中尉の使命は、イエス・キリストの福音を宣べ伝え、人々を救いに導き、苦しむ人々に奉仕することです。そのために、集会の指揮、伝道活動、カウンセリング、訪問、ファンドレイジング、慰問活動など、さまざまな形で救世軍の使命を推進します。

4. 共同体の模範となる者

特務中尉は、霊的生活を深め、聖潔を追求し、祈りと聖書の学びを通じて神との関係を維持し、他者への愛を実践することを通して、共同体の模範となり、共同体の成長を助けます。

5. 働きを託された者

特務中尉の働きは、本人と軍国との協議によって決められた特定の任命に関する働きであり、3年間の年限が定められていますが、本人と軍国との合意によって年限を更新することができます。

なお、特務中尉は、奉仕の2年目以降に士官志願をすることができます。士官志願が受け入れられた場合には、士官候補生として士官学校での訓練に入ります。

新たな制度が活かされ、救世軍の使命を担う働き人がさらに起こされますよう、お祈りください。

軍国の新たな取り組み

バザー場の新たな展開「リシェア・ストア」開店に向けて

救世軍は、世界各国において財政状況の改善と持続可能な活動の確立を目指し、新規収益事業の強化を推進しています。

日本においてもその取り組みの一環として、杉並区にある男子社会奉仕センター・バザー場を改装し、既存の店舗をリニューアルするとともに、経理などの管理部門を強化する予定です。今後、この拠点を中心に、都内での新たな店舗展開を進めていく計画です。

この新規事業に向けて、2020年から都内でいくつかの小隊の協力のもと出張バザーを繰り返し実施し、工夫と研究を重ねてきました。各地域で違いがある需要を確認しながら、どのような商品が求められているのか、どのような販売形態が適しているのかを検討し、さまざまな試行錯誤と準備期間を経て、今年4月、港区元麻布にあるSA麻布レジデンスの1階に新たな店舗をオープンする運びとなりました。

この新店舗は、オランダの救世軍が展開しているバザー場のブランド「ReShare Store」（リシェア・ストア）のロゴとストアデザインを使用する許可を受けて、「ReShare Store Tokyo - Azabu」として看板を出すこととなりました。現在商標登録を出願中です。

「リシェア・ストア」は、単なるリユースショップではなく、「Pre-Loved」（プリ・ラブド）という理念を大切にしています。「Pre-Loved」とは、「前の所有者に愛され、大切に使われた品が、新たな持ち主の手に渡り、再び愛される」という意味をもちます。この考え方は、リサイクルやサステナブルな消費の推進だけでなく、物を大切にする文化を広めることにもつながります。

新店舗の開店にあたっては、杉並の男子社会奉仕センター・バザー場と、本営の新規収益事業開発プロジェクトチームが密接に協力し、企画と準備を進めてきました。商品の選定や店舗運営の方針策定、広報戦略の立案など、多岐にわたる課題に取り組みながら、より良い形での事業展開を目指して努力を重ねています。このプロジェクトは、救世軍の社

RESHARE
ST RE



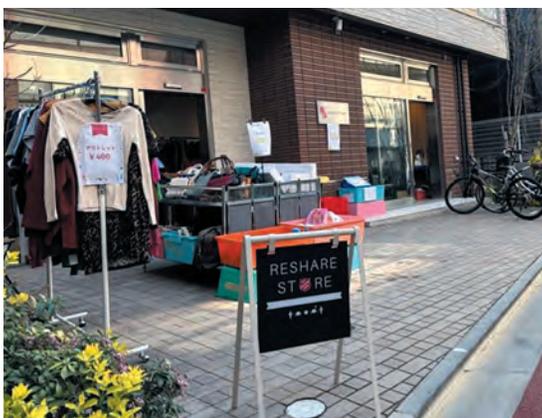
PRE-LOVED & VINTAGE FASHION

会奉仕活動の財政基盤を強化するだけでなく、持続可能な働きを支える重要な役割を果たすことが期待されています。

また、「リシェア・ストア」は単なる収益事業の場ではなく、福音伝道の新たな機会としても位置付けられています。店舗を訪れる人々が、物を通じて他者とのつながりを感じ、神の愛に触れる機会となることを願っています。

救世軍のバザー場は、これまでも多くの人々の支えによって運営されてきました。物品を提供して下さる方々、買い物を通じて支援して下さる方々、店舗運営に携わるスタッフやボランティアの協力があってこそ、これらの活動は成り立っています。この新店舗が、より多くの方々に救世軍の働きを知っていただき、共に社会に貢献できる場となることを願っています。

この新たなバザー場の取り組みが、日本での救世軍の活動をより強固なものとし、地域社会への貢献をさらに広げていくことができますよう、お祈りいただければ幸いです。



リシェア・ストア
Instagram
QRコード↓



@tokyoazaburesharestore

〈証言〉

献身の証言

ラーランザウイ候補生

神を人生の土台とする

イエスは、マタイによる福音書七章で、二人の男が家を建てたとえを語られました。一人は岩の上に家を建て、嵐の中でも倒れることはありませんでしたが、もう一人は砂の上に家を建て、嵐が来ると倒れてしまいました。

このたとえは、神を人生の土台とすることの大切さを示しています。人生には苦しみや誘惑の嵐が絶えず吹き荒れますが、私はイエスによって永遠の岩の上に家を建てて、神の愛と真実を、どのような困難の中にあっても私たちを支える力を与えてください。

一方で、世の富や成功、競争に心を奪われると、悩みや悲しみが心を覆い、落胆し、疲れを感じる場合があります。しかし、私は神だけを人生の土台としています。神の愛は決して変わるものがなく、神と共に歩むなら、どんな嵐の中でも耐え抜くことができます。確信しています。

救いの確信

二〇二二年四月、私はミヤンマーで最も有名な仏教の祭りの一つである水祭りの期間中、ヤンゴン・クリスチャン・

ユース・フェロシップ(YC YF)が主催した夏のバイブル・キャンプに参加しました。キャンプのテーマは「ヨシユア記一章九節」でした。

私たちの人生には恐れや苦難がありますが、それを乗り越えるためには、主イエス・キリストの保護と導きのもと、勇敢に信仰の道を歩まなければなりません。このキャンプを通して、私はただ聞くだけでなく、信仰を自分のものとして受け入れるようになりました。

「事実、あなたがたは、恵みにより、信仰によって救われました。このことは、自らの力によるのではなく、神の賜物です。」(エフェソ 2・8)

この御言葉を深く心に刻み、私の救いは神の恵みによるものであり、私自身の努力やおこないによるものではないと確信しました。

聖潔の経験

「あなたがたは、自分が神の神殿であり、神の霊が自分たちの内に住んでいることを知らないのですか。」(コリント一 3・16)

神は、私たちが体、心、霊において聖なる者となることを望んでおられます。救世軍は聖潔を重んじる教会であり、私の両親は幼い頃からその大切さを教えてくれました。

人間には肉の欲があり、それを楽しまたいという思いが生じることもあります。しかし、聖霊は私にそれが正しくないことを示されます。私の心は弱く、自分の力で制することができません。だからこそ、私は毎日自分の人生を神に委ね、神の導きに従って歩むことを決心しました。私の体は神の神殿であり、これを汚すことなく、聖なるものとして生きることが私の願いです。

他の人をキリストに導くために

ミヤンマーは仏教国であり、宗教の自由が制限されています。しかし、クリスチャンの多い地域では、信仰を実践することができません。私は神を証しし、他の人々をキリストに導くために、日曜学校教師や青少年部下士官として奉仕してきました。

特に日曜学校の子どもたちは

救世軍の未来です。定期的な小隊に連れられない子どもたちの家を訪問し、聖書を読み、祈りの時間をもちました。また、青年たちのために家庭でフェロシップを開催し、信仰を分かち合いました。私はまだ知識やスキルが十分ではありませんが、できることを精一杯おこなってきました。日本に来てからは、職場の同僚にどのように信仰を伝え

たらよいか悩みました。私にできることは、彼らのために祈り、クリスチャンとしての良い模範を示すことだけです。それでも、神の国が広がっていくことを信じて歩んでいます。

士官となる召命

私は士官の家庭に生まれ、幼い頃から神への奉仕に親しんできました。高校時代、南部地区の小隊候補生キャンプに参加した際、私は神に六つの約束をしました。その中の一つが「卒業後、士官になること」でした。しかし、学業に専念するうちに、この約束を忘れてしまいました。

二〇一七年、日本で学ぶことになった際、母は私にミズ語の聖書を手渡しました。その聖書の中に、かつての約束を書いたしおりが挟まっていた。なぜそこにあつたのかわかりませんが、それを見た瞬間、神が私にもう一度語りかけておられることを感じました。

正直に言うと、神の召しを感じたのは今回が初めてではありません。しかし、私は自分のやり方で神に仕えようとしていました。しかし、今、神が私を創造された目的、そして私が神に仕えるために救われた理由が明らかになりました。今年の最大の祝福は、すべてを神に委ねる人生を決断

したことです。私にはまだ多くの欠けがありますが、神が導いてくださると信じ、士官学校での学びを通して、より忠実に神に仕える者となることを願っています。主の御名が崇められますように。

あなたは召されていませんか

今、新しい時代を担う献身者を求めています。救世軍士官や特務中尉として奉仕するよう、神様から召命を受けている方は、小隊士官または士官志願者部 (Tel 03-6261-2447、jpn.candidates@jpn.salvationarmy.org) までご連絡ください。

525 キャンペーンは終了しましたが、引き続き、各小隊の成長のため、士官候補生、献身者が与えられるよう、祈りましょう！

次年度(2026~2028年)士官学校 『救い出された者』の学年 (コロサイ1:13)

YGC (山室軍平カレッジ)

4月1日(火)、『変革の宣言者』の学年にラーランザウイ候補生が入校し、YGC 校長とスタッフの歓迎を受けました。2年間の学びと訓練を開始しました。4月4日(金)には、入校式と歓迎夕食会がおこなわれました。



NEWS!! NEWS!!

各地のニュース!!

東京東海道連隊

●東海道地区新年懇親会

2月11日(火・祝)、名古屋小隊を会場に東海道地区新年懇親会をおこないました。東海道地区より16人が集いました。午前中、連

隊女性部書記 鈴木眞理子大尉の司会により開会。礼拝を献げ、連隊長 中島美和大尉が創世記28章10～22節より御言葉を取り次ぎました。「ヤコブが実家を逃げ出てきたその夜、主がヤコブに対して個人的な神様として語られた。『あなたを祝福する。わたしはあなたと共にいて、あなたを守り必ずこの地に連れ帰る。約束を果たすまであなたを決して見捨てない。』主は、神の子ども、主の僕である私たちに対しても同じ約束をしてくだ



さっている。約束を果たされる主に望みを置いて歩いていこう。」

午後は、昼食後、賛美とゲームで親睦を深める時をもちました。今年の標語「信仰の遺産の上に築く」にちなんで、ボール紙を用いてタワーを築くゲームをおこない、参加者に笑顔があふれました。最後に、浜松小隊士官太田晴久少佐が、「私たちは信仰生活の中で、よろめく時、崩れる時がありますが、主に希望を置いて歩むことができますように」と祈りを献げ、恵みのうちに懇親会を閉じました。(参加者16人)



集った戦友方

渋谷小隊

●バグマイヤー前楽長夫妻を迎えての日曜日

1月26日(日)、ハロルド・バグマイヤー前シカゴ・スタッフ・バンド楽長と、夫人のプリシラ・バグマイヤーさんを迎えて聖日を守りました。聖別会は勝笹実香大尉の司会により進められ、ハロルド氏がバンドを指揮、プリシラさんは証言で、士官子女として生まれ育ち、6歳の時イエス様に人生を献げる祈りをしたこと、結婚後の歩みの中で試練に遭った時、神から「あなたはわたしの娘である」と語りかけがあり、今、神の娘である喜びと恵みの中、神を中心として歩む幸いを得ていることを話しました。勝笹隆大尉は「新しいことに踏み出す」と題



バグマイヤー氏の指揮による奏楽

して、イザヤ43:16～19より御言葉を取り次ぎました。(会衆55人、うちZoom13人)

愛餐会ではおいしい食事と共にバグマイヤー夫妻、司令官夫妻との和やかな交流の時をもちました。(40人)

●兵士献身サンデー

2月2日(日)の聖別会は、士官学校長及び霊的生活成長部長ダニエル・テンブルマン・トゥエルズ少佐が出陣しました。この日は賛美礼拝として勝笹実香大尉の導きで進められ、ワーシップバンド(ギター、カホン)とブラスバンドの奏楽にダニエル少佐もピアノで加わりました。ダニエル少佐は「エレミヤの召命」(エレミヤ1:4～10)と題して、「神はこれまで聖霊を通して様々な人に語りかけてこられた。神によって遣わされる時、神は必要なものを備えてくださる。聖霊によって力づけられ、忠実に神に仕える者でありたい」と御言葉を取り次ぎました。その後、兵士はそれぞれ恵の座で祈り、兵士献身誓約書にサインする時



をもちました。(会衆43人、うちZoom18人)

午後は「霊的生活の学び」をダニエル少佐が導きました。(24人)

YP (青少年部)・ファミリーニュース

杉並小隊 ●献児式

3月2日(日)の聖別会は司令官スティーブン・モーリス大佐と軍国女性部会長ウェンディ・モーリス大佐の出陣でした。席上、ウェンディ大佐が吉田凜人くん、流一くんの献児式を司式しました。司令官は「次世代への確かな土台」と題し、申命記6章1～9節よりメッセージをしました。



5月 青年デー
(各連隊)
詳細は小隊でご確認ください!

5月、6月 女性部ラリー
(各連隊)
救世軍 女性の働き
詳細は小隊でご確認ください

横浜小隊

● “こども広場” 春スペシャル

3月26日(水)午前中におこないました。2024年4月から毎月2回、水曜日の15～17時まで、地域の子供たちが自由に集える“こども広場”を開催しています。この日は春休みのスペシャル企画として、礼拝、外遊び、工作、デザートづくりをみんなで楽しみました。

初めて参加する親子もあり、幼児・小学生が7人、保護者2人が集いました。礼拝では「まいごのメーコ」のお話を皆さん真剣に聞いていました。また、外遊びでは、色のついた大きな布パラバルーンを使って体を動かし、楽しみました。工作では、キャッチボールマシーンを作り、それぞれマスキングテープで自分らしく装飾しました。子供たちの楽しそうな声があふれる恵みの時を過ごすことができました。

“こども広場”を始めてから一年間、時に子どもが来ない日もありましたが、“こども広場”を祝福し、私たちに導き励ましてくださる神様に、プログラム終了後、スタッフ皆で感謝の祈りを献げました。



工作の時間

名古屋小隊

● YP 進級進学お祝い会

3月30日(日)お昼から、子どもたちと保護者を招いて、YP 進級進学お祝い会をおこないました。ホットドッグのランチの後、一人ひとりに新学年で楽しみにしている事を発表してもらい、入学する子どもたちには小隊の青少年部からお祝いを贈りました。



NEWS!! NEWS!!

各地のニュース!!

ブース記念病院

●日曜礼拝

3月9日(日)午後2時、病院の日曜礼拝前にジャパン・スタッフ・バンド(JSB)のアンサンブルメンバーによるホスピス病棟への慰問演奏がおこなわれました。職員、ご家族の皆さんがこれを聞いてとても喜ばれました。

午後2時30分から、救世軍の病院として最後となる日曜礼拝がおこなわれました。司会は医療部長西村和江大佐補。JSBによる「主を招く声が」の前奏で始まり、会衆賛美「主われを愛す」を歌いました。会場となった

外来ロビーには、近隣住民の皆さん、グレイスの利用者さんとそのご家族、恵みの家の入居者さんとそのご家族、病院入院中の患者さんなど、多



くの方が集われました。

司令官スティーブン・モーリス大佐はヨハネ6・35より「命のご飯」と題してメッセージをし、軍国女性部長ウェンディ・モーリス大佐はお祈りを献げました。JSBは「シング・ホザナ」、「広い河の岸边」、「めぐみの岸を」、「^{かみめし}牧主わが主よ」をバンドマスター石川一由紀少佐の進行で演奏しました。最後に一同で「いつくしみ深き」を賛美しました。

この礼拝の様子は病室にも中継され、155人の方々が参加されました。



女性部 ●世界祈祷日 東京集会

3月7日(金)、午後1時30分から、日本基督教団信濃町教会でおこなわれました。クック諸島の世界祈祷日委員会が作成した式文にもとづき「わたしたちはおそろしいほどに、すばらしく造られています」のテーマで祈りを献げました。日本基督教団目黒原町教会の大塚恵子牧師が詩編139編からメッセージをしました。27教派・

団体から136人が会場に集いました。



希望館

●地域小規模グループホーム「みなと」落成式

3月25日(火)におこなわれました。西日本連隊長本村大輔少佐が司会し、救世軍歌「いつくしみ深き」を一同で歌い、西日本連隊女性部書記本村いずみ少佐が祈祷。マタイ19:13~15の朗読に続き、司令官・理事長スティーブン・モーリス大佐が式辞を述べ、「小さな子どもたちを愛するイエス」と題してメッセージをしました。軍国女性部長ウェンディ・モーリス大佐が献納の祈りをし、新しいグループホームと希望館の働き、利用する子どもさんのため祝福を祈りました。



工事経過説明を倉持徹財産部長がし、続いて、感謝状が株式会社二井清治建築研究所代表取締役 二井清治様、株式会社安部工務店代表取締役 安部寿一様に、司令官より贈呈されました。二井様、安部様それぞれにご挨拶をいただき、最後に希望館の畑瀬剛施設長が挨拶をし、閉会しました。その後はホームの内覧をしました。(会衆29人)

令和元年7月に施設長職を引き継いで以来、様々な課題があり、自身の無力感に苛まれる毎日でした。多くの方に支えられ、教えをいただく中で、「グループホームをつくりたい」と思うようになりましたが、「本当にこれでいいのだろうか?」との葛藤もありました。しかし土地を提供してくださった西之辻様、設計の二井先生、施工の安部工務店様、それらの方々に出会えたということは、きっと神様も、「やってみなさい」と背中を押してくれたのだと思います。日本一の建物ができました。この先の運営は順風満帆ではないかもしれませんが、職員たちと力を合わせて乗り切っていけると信じています。

希望館の新しい船出にふさわしい、「みなと」という名のグループホーム。どうぞ今後も温かく見守ってください。よろしくお願いたします。施設長 畑瀬 剛



社会鍋による支援 横浜小隊

●冬季食料品・日用品配布

横浜小隊では社会鍋慰問活動として、1月と2月に計6回、冬季食料品・日用品配布をおこないました。

配布に並ばれる方々の状況は、寝食

するところが全くないという方は少なく、それぞれの生活の中で食料品のストックなどを求める方々が多いように感じます。

毎回、炊き込みご飯やレトルト食品、防寒着、肌着やカイロ等日用品を配布しました。寒さの厳しい時期、温かいオニオンスープは好評でした。平均利



用者数は37人でした。

また、地域の協力者から寄せられた防寒着、バレンタインデーのチョコレートも利用者に変え喜ばれました。限られた時間ではありますが、配布前に並ばれている方々に神の祝福を祈り、社会鍋に献金を寄せられた方々の思いを感じつつ、主の愛が届きますようにと祈りのうちに奉仕しました。



福山小隊

●子ども食堂への支援

1月22日(水)、社会鍋支援として、こども食堂「こもれびキッチン」を訪問し、こども食堂で使用する炊飯器2台と困窮家庭へお配りする米(5キロ×8袋)をお届けしました。また、「以前、雑穀入りのご飯を提供したらとても喜ばれ、『また炊いてほしい』とリクエストがあった。お母さんたちは子どものために食べさせたいけれど、お金も手も回らない」ともお聞きしたことから、雑穀米(4kg×6袋、混ぜるタイプ200g×4個)もお届けしました。大変喜んでくださり、「炊飯器を初めて使う

時には、盛大に『初炊き式』をしなければ」と言ってくださいました。また、先方の様々な活動の一つである、DV被害者と子どもたちへの支援についてもお話をお聞きすることができました。被害に遭われた方々が避難してからの親子関係の変化や心理的な状態、支援活動の実際等について学ばせていただく機会となりました。



札幌小隊

●社会鍋慰問

3月31日(月)、「生活相談サポートセンターホープ」にお米とりんごを困窮家庭への支援品としてお届けしました。(米30キロ、りんご40個)

4月1日(火)には「生活自立支援事業所ベトサダ」へ下着とバスタオルを寄贈しました。(下着45枚、バスタオル10枚)

物価高騰にあたり、各事業所の要望に沿って必要な物をお届けしました。皆様のご支援に感謝しつつ、利用者の方々の必要が満たされますよう祈ります。



江東小隊

●こども食堂「マナ」

連隊本部と協力し、毎月第三金曜日に継続して実施しています。昨年9月からは、お子さん同伴でない方は同居の証明のできる証明書を提示していただいて配布する方法に変更しました。

2月21日(金)のお弁当メニューは「三元豚のロースカツ重」。地域の皆様からのたくさんの寄贈品の食品・ドリンク・お菓子も並び、午後5時の配布が始まる前から、何を選ぼうかワクワクしているお子さんの姿もありました。寒い日でしたが、通りすがりにこども食堂を知り、初めて利用された方もいらっしゃいました。3月21日(金)は「ビビンバ丼 温泉卵付」でした。受験が終わり、喜びのご報告と共に来てくださった親子もおられました。毎回、利用するお子さんと保護者の方々の心と体が守られますようにと祈りつつ続けています。



〈連載・第32回〉

神の呼びかけ ～神の民となるために～

(12) 戦いへの呼びかけ

(承前)「教会が世の中とうまくやっているということは、何かが間違っているのです。世の中は変わりません。昔から何も変わらないのだから、もしクリスチャンが世から聖別されて信仰深く主に献身しているならば、そのような生き方は神に背くものを非難することとなり、かつてと同様、世は彼らを憎むでしょう。」

長い間、救世軍が悪に打ち勝ってきたことを認めながらも、ロジャー・グリーンは「緊急を要する戦いがおこなわれていない。例えば、不公平な法律、人種差別、貧困層への富の分配、教会の権威を無視する力への沈黙」と指摘しています。救世軍の小隊、連隊、あるいは軍国の指導者たちのみでなく、すべての救世軍人が、聖霊の力によって、この世をより良い場所にするために自らの役割を果たすよう、これらの、そして他の戦いに参加するよう招かれているのです。

使徒パウロは、導きと挑戦と励ましの言葉を聖書に残しています。エフェソの信徒への手紙6章12節では、熱心に戦いについて、「支配と権威、暗闇の世界の支配者、天にいる悪の諸霊を相手にするもの」と述べています。続いて、彼はクリスチャンが主の「偉大な力」(10節)によって戦うために必要な武具を挙げています。

ローマの信徒への手紙8章では、反対のことを述べています。過去の過ちに亡霊のように悩まされ、力をなくしている者たちに、はっきりと宣言します。「今や、キリスト・イエスに結ばれている者は、罪に定められることはありません。キリスト・イエスによって命をもたらす霊の法則が、罪と死との法則からあなたを解放したからです。」(1、2節)自分の過去の罪に責められ続けていると勘違いしているクリスチャンに、そうではないと励ましています。彼らから戦いを奪ってはなりません。同章の後述(31節)でパウロは、神の敵の力がどんなものであるかを問いかけています。「もし神がわたしたちの味方であるならば、だれがわたしたちに敵対できますか。」神は全能です。適う敵はありません。

他の聖書箇所では、たびたび「恐れ」について言及しています。詩編23編で、作者は「わたしは災いを恐れない」と言います。なぜなら、神が共におられるからです。詩編34編10節「主の聖なる人々よ、主を畏れ敬え。主を畏れる人には何も欠けることがない。」詩編47編3節では「主はいと高き神、畏るべき方 全地に君臨される偉大な王」であることを思い起こさせてくれます。次から次に、主を正しく畏れることについての聖句が出てきます。意義深いことには、聖書のどこにも、悪魔を恐れよとは書かれていないことです。

ヤコブの手紙4章7節では、「悪魔に反抗しなさい」

と勧められており、そうすれば悪魔はわたしたちから逃げていくと約束しています。ペトロの手紙一5章8節では、わたしたちの敵である悪魔は「ほえたける獅子のように、だれかを食い尽くそうと探し回って」いると思いを起こさせます。悪魔と戦うよう、再び促されているのです。しかし、それを恐れよという忠告はありません。わたしたちは不注意や軽率、無防備であったり、浅はかにも悪魔をみくびったりしてはいけませんが、決して恐れる必要はないのです。悪魔にはそれをする力もないのに、悪魔のせいにする必要もありません。悪魔を恐れるという罠に陥れば、わたしたちの霊的な力は損なわれるでしょう。パウロにはあり得ないことです。「だれが、キリストの愛からわたしたちを引き離すことができましょう」と尋ねています。「艱難か。苦しみか。迫害か。飢えか。裸か。危険か。剣か。……しかし、これらすべてのことにおいて、わたしたちは、わたしたちを愛してくださる方によって輝かしい勝利を収めています。」(ローマ8・35、37)人間には困難なことでも、キリストが共におられます。

パウロは、さらに霊の世界について語ります。彼のメッセージは明確です。「わたしは確信しています。死も、命も、天使も、支配するものも、現在のものも、未来のものも、力あるものも、高い所にいるものも、低い所にいるものも、他のどんな被造物も、わたしたちの主キリスト・イエスによって示された神の愛から、わたしたちを引き離すことはできないのです。」(38、39節)

そのような確信は、わたしたちの信仰の中心です。それは、世に勝利したキリストの力に基づいています。わたしたちはそれを言い表すよう、そのように生きるよう、そして証明するよう求められているのです。

質問

1. イエス様が「勇気を出しなさい。わたしは既に世に勝っている」とおっしゃいましたが、何をわたしたちに教えようとしているのでしょうか。
2. あらゆる形で攻めてくる悪魔に、わたしたちはどのように向かえばよいのでしょうか。
3. 自分の周囲にある霊的なニーズに対して、どのように気づくことができるのでしょうか。
4. キリストの役に立つためには、どのような聖霊の賜物を必要としていますか。

参考になる聖書箇所

ヨハネ16・33、エフェソ3・20、21、6・10～18、ローマ8・1、2・9～11、16・20、ヨハネ一5・5

(13) 家族への呼びかけ

わたしたちは世界中の救世軍人に呼びかけます。信仰の継承の中心に、家族を取り戻してください。誠実な愛をもって親たちを支えて、神と宣教への思いを熱くし、子どもたちを健全に導くことができるように。(続く)

救世軍見解表明

社会道德に対する救世軍の立場 第16回「安息日の遵守」(2)

安息日遵守についての見解表明

(承前) 救世軍は、一人一人がこの聖書の教えるところから従って生きる、責任と特権を有すると信じます。さらに、救世軍は、宗教的信念から労働することが許されない時間があると信じる人々を、就職、配置、昇進などに関して理由なく差別することは許されないと考えます。救世軍は、日曜日を安息日と認め、初代教会の慣習に従い、その日をキリストの復活を記念し、祝う日としています。

見解表明の背景と状況

人間が仕事に専念し、義務を果たし、神が与えてくださるすべてのものを享受するためには、適切な休息が必要です。逆に言えば、休息のための日を取らないということは、人間には肉体的休息と霊的更新が必要であるということを示唆することになります。営利主義が勢いを増し、生活のペースが加速する中で、日曜日、または、別の日に安息日を取るとしても、その日を守ることは、聖書が神の創造されたすべてのものの益のために保証された、休息と活動に関する自然のリズムを増強することになるのです。

救世軍の立場の土台となるもの

安息日は創造の時に神によって定められ、聖なる日とされました(創世記2:2、3、出エジプト20:8~11、レビ23:3、ネヘミヤ13:15~22、詩編92)。安息日を守ることは、十戒の4番目の掟となり、代々守られてきました(ヘブライ4:9~11)。

旧約聖書では、安息日に商売をすることが禁じられていました(ネヘミヤ10:32、13:15~22)。そのことが主の日の霊的な重要性を弱めたからです。安息日は、「主を喜ぶ」(イザヤ58:13、14)喜びの機会と考えられていました。自分たちの利益を追求するもう一つのチャンスではなかったのです。

救世軍は、このようなクリスチャンの歴史から、次のように考えます。

- * 日曜日は「聖なる集会の日」(レビ23:3)であり、信じる者たちの生活を豊かにし、お互いの交わりを強め、神との交わりを強める、礼拝と、賛美と、祈りの日なのです。それはまた、家族、友人、礼拝する会衆と共に集う機会なのです。
- * 日曜日は、生活の心配事や挑戦から離れて、神の内に憩う時なのです。それが人間というものです。「安息日は、人のために定められた。人が安息日のためにはあるのではない。」(マルコ2:27)

* 日曜日を聖なる日として守るのは、神を礼拝するためにこの世の仕事を中止するというだけでなく、他の人々への愛と親切の業をおこなうことも含まれています。安息日を遵守することが遵法主義になることについて、イエスは警告を発しておられます(マタイ12:1~8、マルコ2:23~28、マルコ3:4、ルカ13:10~17、ヨハネ5:1~15)。

* 日曜日を休息の日として守ることは、創造主なる神への従順と崇敬の念の表れなのです(出エジプト20:8~11)。

実際的な対応

1. 救世軍人たちは可能な限り、日曜日を礼拝と休息と家族の日とし、そういう日として保つために、力を尽くします。
2. 救世軍は、どのようにしたら他の人々のために、週の一日を休息と更新の日とすることができるかを考えるよう、人々を励まします。
3. 日曜日に働かなければならない人々のために、救世軍はクリスチャンの礼拝と交わりのためのいくつかの機会を提供できるように努めます。

(2012年2月大将によって承認)

第17回「自殺防止」(1)

自殺防止についての見解表明

救世軍は、人が自殺をしようとする、または、他の人にそれを手伝ってもらおうとすることを防止するために、あらゆる方法を用いるべきだと信じています。自殺は本来、医学的、精神的、(またはその他の)健康問題であるかもしれませんが、自殺防止のためには、社会的な支援や関係性のような防止策が、重要な役割を果たします。自殺防止はすべての人の責任と言えるでしょう。自殺防止は、その場所で、その時に用いることができる、適切な知識を持った、心配りのできる人の働きにかかっているのです。

見解表明の背景と状況

自殺とは、故意に自分自身を殺す行為のことです。熱心な研究にもかかわらず、世界的に受け入れられた、自殺の理論はありません。自殺は現在では、生物学的、遺伝学的、心理学的、社会学的、環境的な要因の、複雑な相互作用の結果起こる、多次元障害であるとされています。また、社会経済、家族、個人の危機的状況(例えば、失業、愛するものの死、名誉の喪失)の時によく起こると言われています。

今日、自殺はすべての国々で、主要な公衆衛生問題とされていますが、その結果が社会的、情緒的、経済的に拡大しているため、多くの社会において、それはいまだにタブーとして残っています。自殺の危険を完全に排除することはできないかもしれませんが、防止のための多様な方策を用いて、その危険を少なくしていくことは可能です。(続く)



坂本弘國少佐 天に召さる

坂本弘國少佐は、2025年2月21日、入院先の病院より、召天されました。79歳でした。坂本弘國少佐は1969年、渋谷小隊より士官学校『勝利者』の学年に入校。1971年3月中尉に任ぜられ、高崎小隊に遣わされました。1972年横須賀小隊長。1973年小野寺恭子中尉と結婚。その後、浜松小隊長、熊本小隊長、(兼)大牟田小隊長、福岡小隊長、大森小隊長、本営事業企画部長補佐(現・伝道事業部)、札幌小隊長、呉小隊長、高知小隊長、(兼)高松小隊長を歴任。2010年には士官永年勤続章40年章を授与されました。2013年4月現役を引退。引退後も高知小隊長を継続奉仕されました。高知小隊長解任後、麻布小隊付。2017年3月に完全引退されました。

士官として忠実に歩みを全うし、音楽の賜物を用いて、引退後も幅広く活躍されました。渋谷小隊では副唱歌隊長として賛美を指導されました。告別式は3月2日、渋谷小隊にて、渋谷小隊士官勝篔実香大尉の司会、吉田真中將の司式で執りおこなわれました。ご遺族の上に神様の御慰めをお祈りいたします。

救世軍公報

転任(カッコ内は継続任命)

補(兼)婦人寮施設長補佐(副伝道事業部長、(兼)軍国CCM書記(兼)人身取引対策室長)

(四月一日付)

石川節子少佐

補北海道連隊本部付、(兼)北海道連隊青少年部書記

(七月一日付)

柞山順子大尉

(なお、医療従事者交友会書記は後任者なしで、医療従事者交友会は七月一日付で医療部長管轄となる)

補(兼)伝道事業部付(横浜小隊士官)

(四月一日付)

鈴木智博大尉

司令官

スティープン・モーリス

昇任

任少佐 (三月二十一日付)

勝篔隆大尉

任少佐 (三月二十一日付)

勝篔実香大尉

任少佐 (三月二十一日付)

本村大輔大尉

任少佐 (三月二十一日付)

中島美和大尉

任大尉 (二月二十一日付)

柞山順子中尉

任大尉 (二月二十一日付)

樋口潔中尉

任大尉 (二月二十一日付)

樋口光世中尉

任大尉 (三月十五日付)

友安渚中尉

四十五年永年勤続章 眞鍋精一少佐

(三月二十三日付)

司令官

スティープン・モーリス

医療サンデー 6月1日

救世軍の医療の働きとすべての医療従事者のため、祈りましょう。

2025~2027年

『変革の宣言者』の学年 候補生紹介



2025年4月に開校された士官学校『変革の宣言者』の学年に、大森小隊のラーランザウイ兵士が受け入れられました。

皆様のお祈りに感謝し、ご報告いたします。さらに献身者が起こされますよう、お祈りを願います。



召天
坂本弘國少佐(渋谷小隊出身)は、二〇二五年二月二十一日、召天。
司令官
スティープン・モーリス

救世軍創立 160周年記念コンサート

6月8日(日) 午後3時

第9回救世軍社会鍋俳句コンテスト受賞作発表

会場：山室軍平記念ホール

NEWS!! NEWS!!

各地のニュース!!

社会福祉部・医療部

●東京地区合同入職式

4月1日(火)、山室軍平記念ホールにて、東京地区の社会福祉部・医療部合同の入職式がおこなわれ、昨年4月以後に各施設に入職した職員の皆さんが集いました。コロナ禍の影響で近年は杉並小隊・総合センター別館(アネックス)で開催されていましたが、久しぶりの本営での開催となりました。

9時30分からの開会礼拝は社会福祉部長石川一由紀少佐の司会で進められました。「いつくしみ深き」を一同で歌い、石川少佐が開会祈禱を献げました。軍国女性部会長ウェンディ・モーリス大佐が挨拶と証言をし、司令官・理事長スティープン・モーリス大佐はコロサイ3・23、24から「できる限りを尽くす」と題してメッセージしました。軍国女性部書記 西村和江大佐補が祈り、閉会しました。

10時15~45分は「救世軍に入職した皆さんへ~理

念について~)として、書記長官西村保大佐補が、救世軍医療事業・社会事業の理念について、救世軍の各施設が依って立つ聖書の教え、イエス様の愛によって他者に仕えることについて語りました。休憩をはさみ、10時55分~11時30分は「日本と世界の救世軍について」社会福祉部長石川一由紀少佐が講演し、救世軍創立の経緯と精神、世界や日本における具体的な働きについて語りました。都内の施設長紹介などがなされ、入職式終了後は、施設ごとに本営事務所を見学しました。(参加者52人、スタッフ10人)



創立者 ウィリアム・ブライス 大将 リンドン・バッキンガム (万国本営 英国 ロンドン) 日本司令官 スティーブン・モリス (救世軍本営 東京都千代田区) <https://www.salvationarmy.or.jp>

ミャンマー大地震への対応

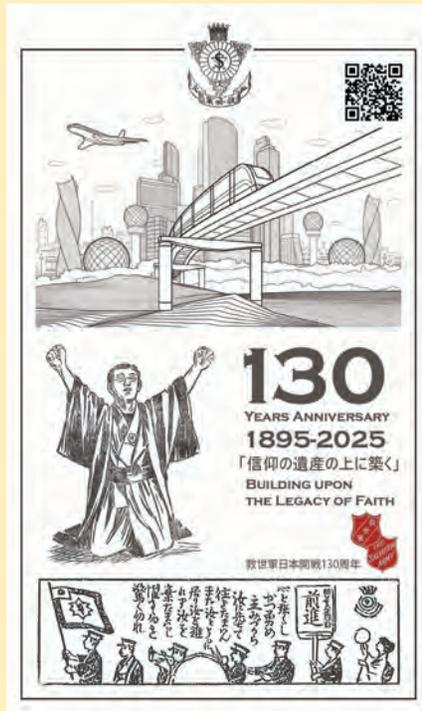
3月28日(金)にミャンマー中部のマンダレー近郊を震源として発生したマグニチュード7.7の大地震により、甚大な被害が出ています。救世軍万国本営は、シンガポール・マレーシア・ミャンマー及びタイ軍国(本営:シンガポール)を通じてこの危機への対応、被災地支援を進めています。現在、緊急支援として約300万円規模の支援を実施中です。さらに、3,700万円規模の支援を調整し、物資提供や輸送支援を含む活動を準備しています。地震で被害を受けたミャンマーの小隊や児童養護施設の修復も検討中です。救世軍はミャンマーで、小隊の活動とともに、3つの児童養護施設、1つの児童デイケアセンター、1つの診療所、57の村落での地域開発をおこなっています。

発災直後、ミャンマーの士官は次のように報告しています。「被害は甚大であり、救助活動が非常に困難になっています。90年以上の歴史をもつイラワジ川の橋をはじめ、マンダレーからヤンゴン間の主要幹線道路など、重要なインフラが損傷を受けています。ネピドー総合病院も崩壊しており、負傷者の治療が一層困難な状況です。さらに、マンダレー空港は地震の影響により6カ月間閉鎖されることになりました。主要な高速道路も使用不能となっており、代わりに古い道路を利用せざるを得ない状況です。そのため、救助及び支援活動の進行が遅れ、多くの人々が食料や安全な飲み水、避難所を確保できずに苦しんでいます。」

そのような状況の中、救世軍の救援チームは4月1日(火)、マンダレーへの最初の緊急支援物資輸送に着手しました。救援チームは、地区プロジェクト責任者のペンデント大尉を中心に、2台の車両に物資(寝具、懐中電灯、飲料水、食料品など)を搭載し出発しました。救世軍はマンダレーに拠点をもちませんが、



一八九五年に救世軍が日本で開戦して、今年で百三周年を迎えます。救世軍ホームページでは「日本における救世軍の百三十年」と題し、年表と写真で歴史をたどる特設ページを開設しています。どうぞご覧ください。右のイラスト内QRコードからもアクセスできます。



救世軍日本開戦百三十年 特別サイト

現地の協力者と連携して支援をおこない、今後の支援のためのニーズの把握や状況調査も実施して、次段階の計画策定に活用する予定です。ペンデント大尉の報告です。「4月2日、チームはヤンゴンとマンダレーの間を16時間をかけて移動し、複数の検問所と安全ゲートを通しました。翌4月3日には、マンダレー地域における地震被災者の方々を訪問・支援するため、さらに11時間を費やしました。訪問地域には、マンダレー中心部、テコネ、アマラプラ、ミットネー、パレイクが含まれます。訪問中、多くの家族が地震によって家を失っていることが判明しました。しかし、マンダレー市街から離れた所であるため、彼らの困難な状況はほとんど知られていません。そのため、引き続き食料支援が必要です。現地では、継続中の紛争に関連していると思われる制限事項がいくつかあり、救援活動を複雑にしています。」

被災地と支援活動にあたる人々を覚えてお祈りください。救世軍ホームページでは情報が随時更新されています。また、オンラインで社会鍋に協力できます。

発行日及び定価
 発行日 毎月一日発行
 定価 四〇〇円
 福喜版 一部 一〇〇円
 広報版 一部 一〇〇円
 クリスマス特集号 十二月一日号 一〇〇円
 振替 〇〇一八〇一五四四〇〇

発行兼 救世軍
 印刷人 代表者 スティーブン・モリス
 編集人 山谷 真
 〒101-0051 東京都千代田区
 神田神保町二丁目十七番
 電話 東京(03)三三七〇八八一
 発行所 救世軍本営
 印刷所 株式会社ヒートンズ

(取扱支部)